

留学生におけるソーシャル・サポート、 対人信頼感および心理的適応の関連

目白大学大学院心理学研究科 譚 紅艷
目白大学人間学部 渡邊 勉
目白大学人間学部 今野 裕之

【要 約】

本研究の目的は、留学生におけるソーシャル・サポート、対人信頼感および心理的適応との関連を検討することであった。中国人留学生160名を対象に、ソーシャル・サポート（日本人サポート、留学生サポート）、日本人への信頼感（日本人への信頼、日本人への不信）、留学生への信頼感（留学生への信頼、留学生への不信）、心理的適応（適応感、不適応感）を測定した。相関分析の結果、ソーシャル・サポートが適応感と明確な関連があった。また、共分散構造分析によって検討したところ、留学生サポートが留学生への信頼に影響を及ぼした。さらに、日本人サポートが日本人への信頼を介して適応感に影響を及ぼした。

キーワード：ソーシャル・サポート、信頼感、適応、留学生

問題と目的

日本では在日留学生に対するソーシャル・サポート研究が行われるようになってきたのは1993年以降であった。その中、樋口（1997）および水野・石隈（2001）は、留学生全体を対象として、留学生のソーシャル・サポートと適応の関係を検討し、ソーシャル・サポートと適応の関連はおおむね認められていると指摘している。また、周（1995）は、在日中国系留学生を対象として、受け取ったサポートの量と適応度の関係を検討し、留学生の心身の健康や適応にはソーシャル・サポートが重要な役割を果たしているとして述べている。さらに、周（2011）は、1993年と2010年のデータで比較し、在日中国系留学生の心身の健康に及ぼす受け取ったサポートの効果を検討した結果、サポートが多いほど精神的健康は改善されることを明らかにした。このように、ソーシャル・サポート要因と適応に明瞭な関連が示され、ソーシャル・サポートが重要な役割を果たしていることは明らかである。これまでの留学生の適応の研究では、

中国人留学生が英語圏からの留学生と比較して、精神的健康度が低い傾向にあるという指摘（たとえば、朝野・北田・野原，1998）、および心身の健康などの適応の心理状態、つまり心理的適応は異文化適応の一つの側面であるという指摘（長井，1986）から、留学生の適応を示す指標として心理的適応が重要であると思われる。これまでも、留学生研究で扱われた留学生の適応領域として心理的適応を挙げている研究は多い（たとえば、早矢仕，1997；植松，2004，2010）。本研究においても、心理的適応を適応の指標として用いる。

しかし、異国の環境では、言葉だけではなく、文化や習慣に対しても十分理解していない状況では、留学生が他者からのサポートを望んでも、助けを求めることは難しいであろう。何故なら、留学生が他者に対し、安心して助けを求められるような信頼があって初めて、他者に頼ることができ、他者からサポートを受けることができると考えられるからである。このことから、他者に対する信頼感が高い留学生は、他

者からのソーシャル・サポート認知が高く、そのことがより良好な適応に導くと予測する。すなわち、信頼感がサポートを介して適応に影響すると考えられる。そこで、本研究では、共分散構造分析を用いて、サポートを媒介要因としてのモデルを検証する。ただし、他者からのソーシャル・サポート認知が高い留学生は、他者に対する信頼感が高く、そのことが円滑な対人関係や良い適応につながるとも予測できる。すなわち、サポートが信頼感を介して適応に影響すると考えられる。そこで、本研究では、信頼感を媒介要因としてのモデルも検証する。以上のことから、本研究では対人信頼感を取り上げ、ソーシャル・サポートと対人信頼感、および適応との関連を検討する。

しかしながら、ソーシャル・サポートの効果は援助供給者によって異なること（たとえば、Jou & Fukuda, 1995）が示されている。実際に、在日留学生におけるソーシャル・サポートと適応の関連の研究が盛ん进行中、サポート源別でソーシャル・サポートを検討した研究が多くなされてきた。まず、一番重要な援助供給者としての同国人サポート源についての研究では、高井（1994）は、在日留学生にとって、一番重要な援助供給者は同国出身者で、次に日本人、そして他国出身者の順であり、この順位は来日2か月後、9か月後でも一貫していたと報告している。また、大橋（2008）は、留学生のサポート源を「同国人」「他国人」「身内」と分けている。また、中国人就学生を対象としている研究（江・顧・李・李, 2011）では、中国人就学生の日常的サポート源は、主に「日本語学校の先輩同級生」「日本にいる同国の友人」からなっていると報告しており、日本語学校の留学生たちは、「自国留学生」にサポートをしてもらっており、自国留学生と親密なネットワークをもち、そのソーシャル・サポート源は日本語学校の留学生のメンタルヘルスを促進すると主張されている（江他, 2011）。一方、一番重要な援助供給者としての日本人サポート源についての研究（Jou & Fukuda, 1995）では、「日本人教官」「日本人学生」「留学生」「学外の日本人」をサポート源として挙げられている。このように、サポート源別でさまざまな研究がなされて

きた。そのため、本研究においてもサポート源別で留学生のソーシャル・サポートを検討する。その際に、在日留学生のネットワークの構成員については、日本人、同国人、他の外国人の順に多い（田中・高井・神山・村中・藤原, 1990；田中・高井・南・藤原, 1990a, 1990b）との指摘から、本研究ではソーシャル・サポート源について、日常的に良く接触している「まわりの日本人」と「自国の留学生」を想定する。なお、ソーシャル・サポートと適応の関連に関する研究（周, 1995）では、留学生は時間の経過に伴い、情緒の問題が増加したと報告している。そのため、本研究ではソーシャル・サポートとして情緒的サポートを取り上げる。

以上のことから、本研究の目的は、在日外国人留学生の6割以上を占める中国人留学生を対象として、彼らの心理的適応に及ぼすソーシャル・サポートの影響を検討することである。

方法

調査時期

2008年11月下旬から12月にかけて実施した。

調査対象者

関東圏内の大学2校、専門学校1校と日本語学校1校、計4校に通う中国人留学生を対象とした。回答に記入漏れ、記入ミスがあるものを除いた160名¹⁾（男性74名、女性85名、不明1名）のデータを有効データ（使用言語は日本語・中国語）として分析の対象とした。年齢層²⁾は、20歳未満（4.4%）、20～24歳（56.9%）、25～29歳（31.3%）、30～34歳（5.0%）、35歳以上（2.5%）であった。平均滞在期間35.5か月（ $SD = 24.80$ ；レンジ1-148）であった。

調査の手続きおよび倫理的配慮

授業時間中に質問紙を配布して調査を依頼した。調査への参加は自由意思によること、無記名回答とすることにより個人の匿名性は守れることを紙面で教示した。回答により調査の了解が得られたものと判断し、回答終了後その場で回収した。実施時間は15～20分程度であった。

調査内容

ソーシャル・サポート 普段留学生はまわりの人たちからどのような援助をうけているのかを聞くために、久田・千田・箕口（1989）が作成した「学生用ソーシャル・サポート尺度」（以下、ソーシャル・サポート）を使用した。この尺度は日本人大学生を調査対象として開発された尺度であるが、項目内容の平易さから中国人留学生に適用すると考え、本研究に用いた。「以下の質問はあなたがまわりの人たちから普段どのような援助をうけているのかを伺うものです。対象（まわりの日本人、自国の留学生）ごとに、それぞれの援助に対する期待感（援助してくれそうだという期待）を評定してください。当てはまる数字1つに○をつけてください。その際、対象を考える人は誰か特定の人でも結構ですし、何人かの人たちのことでも結構です。」という指示によって、「1絶対ちがう」「2たぶんちがう」「3たぶんそうだ」「4きっとそうだ」の4件法により評定を求めた。合計得点が高いほど、それぞれの人物からサポートを多く受けていると知覚していることを示す。なお、この尺度は1因子構造であり、高い信頼性と妥当性が確認されている。

日本人への信頼感 天貝（1995）の信頼感尺度（「他人への信頼」「不信」の2つの下位尺度）を参考に留学生用に日本人への信頼感を測定する尺度を新たに作成した（APPENDIX 1参照）。譚・今野（2012）により信頼性、妥当性が十分高いことが示されている。この尺度は「日本人への信頼」「日本人への不信」の2因子から構成されている。回答は「1全く当てはまらない」「2当てはまらない」「3あまり当てはまらない」「4少し当てはまる」「5当てはまる」「6非常によく当てはまる」の6件法により評定を求めた。

留学生への信頼感 天貝（1995）の信頼感尺度（「他人への信頼」「不信」の2つの下位尺度）を参考に留学生用に留学生への信頼感を測定する尺度を新たに作成した（APPENDIX 2参照）。譚・今野（2012）により信頼性、妥当性が十分高いことが示されている。この尺度は「留学生への信頼」「留学生への不信」の2因子から構成されている。回答は「1全く当てはま

らない」「2当てはまらない」「3あまり当てはまらない」「4少し当てはまる」「5当てはまる」「6非常によく当てはまる」の6件法により評定を求めた。

心理的適応 適応の測定には植松（2004）が作成した異文化適応感尺度（「心身の健康」「学生生活」の2つの下位尺度）を用いた（APPENDIX 3参照）。譚・今野（2012）により信頼性、妥当性が十分高いことが示されている。この尺度は、適応感、不適応感の2因子から構成されている。回答は「1全くあてはまらない」「2あまりあてはまらない」「3少しあてはまる」「4とてもあてはまる」の4件法により評定を求めた。

質問紙の実施にあたっては、日本語に習熟している大学生、専門学校生対象の調査では日本語版質問紙を、日本語能力が不十分と判断される日本語学校の学生に対しては中国語版質問紙を用いた。中国語版質問紙の作成にあたっては、日本語の質問紙を作成した後に第一著者が中国語に翻訳した。その後、日本の大学院心理学専攻に在籍している中国人留学生2名や日本の大学で教授を務めている中国人教員1名と議論の上、2言語間のニュアンスが一致するように中国語版を修正し、心理尺度としての項目の中国語らしさや明瞭性を確認した。

結果³⁾

ソーシャル・サポート尺度の構造

ソーシャル・サポート尺度（16項目）についてサポート源（まわりの日本人、自国の留学生）別に信頼性係数を求めた結果、 α 係数はいずれも.90以上であり、日本人サポートと留学生サポートにおいては高い内的整合性が認められた（Table 1）。続いてサポート源別に主成分分析を行い、日本人サポートでも留学生サポートでも1成分解が確認された（Table 2とTable 3）。そこで以降の分析ではサポート源別に日本人サポートと留学生サポートの合計得点を算出して用いた。

Table 1 ソーシャル・サポート尺度の基本統計量

	<i>M</i>	<i>SD</i>	α 係数
ソーシャル・サポート			
日本人サポート	39.80	8.35	.90
留学生サポート	46.64	9.81	.93

Table 2 日本人サポートの主成分分析結果 (累積寄与率), 平均値, 標準偏差

項目	成分 1	M	SD
10 あなたが何かを成り遂げたとき, 心からおめでとうと言ってくれる	.75	2.67	.82
3 あなたに何かうれしいことが起きたとき, それを我が事のように喜んでくれる	.72	2.50	.86
7 あなたが元気がないと, すぐ気づかってくれる	.71	2.62	.88
13 普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる	.66	2.45	.83
9 あなたがミスをしたとき, そっとカバーしてくれる	.65	2.38	.88
12 日頃からあなたの実力を評価し, 認めてくれる	.65	2.65	.83
6 あなたが大切な試験に失敗したと知ったら, 一生懸命なぐさめてくれる	.65	2.62	.85
14 あなたが学校での人間関係で悩んでいると知ったら, いろいろと解決方法をアドバイスしてくれる	.65	2.51	.80
5 あなたがする話にはいつもたいてい興味を持って耳を傾けてくれる	.64	2.49	.83
4 あなたがどうにもならない状況に陥っても, 何とかしてくれる	.64	2.39	.78
16 あなたを心から愛している	.61	2.34	.84
11 1人では終わらせられない仕事があったときは, 快く手伝ってくれる	.61	2.56	.84
2 あなたが失恋したと知ったら, 心から同情してくれる	.57	2.32	.87
15 良いところも悪いところもすべて含めて, あなたの存在を認めてくれる	.57	2.52	.85
1 あなたが落ち込んでいると, 元気づけてくれる	.55	2.44	.83
8 あなたが不満をぶちまけたいときは, はげ口になってくれる	.51	2.28	.83
累積寄与率 (%) 40.60			

Table 3 留学生サポート主成分分析結果 (累積寄与率), 平均値, 標準偏差

項目	成分 1	M	SD
15 良いところも悪いところもすべて含めて, あなたの存在を認めてくれる	.81	2.86	.85
4 あなたがどうにもならない状況に陥っても, 何とかしてくれる	.81	2.91	.92
14 あなたが学校での人間関係で悩んでいると知ったら, いろいろと解決方法をアドバイスしてくれる	.79	2.85	.90
6 あなたが大切な試験に失敗したと知ったら, 一生懸命なぐさめてくれる	.77	2.93	.92
5 あなたがする話にはいつもたいてい興味を持って耳を傾けてくれる	.76	3.00	.83
3 あなたに何かうれしいことが起きたとき, それを我が事のように喜んでくれる	.76	2.93	.85
12 日頃からあなたの実力を評価し, 認めてくれる	.75	2.65	.88
10 あなたが何かを成り遂げたとき, 心からおめでとうと言ってくれる	.72	2.91	.81
7 あなたが元気がないと, すぐ気づかってくれる	.71	2.94	.84
13 普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる	.70	2.99	.84
11 1人では終わらせられない仕事があったときは, 快く手伝ってくれる	.68	2.97	.83
9 あなたがミスをしたとき, そっとカバーしてくれる	.67	2.83	.87
2 あなたが失恋したと知ったら, 心から同情してくれる	.66	2.97	.92
8 あなたが不満をぶちまけたいときは, はげ口になってくれる	.63	2.87	.90
1 あなたが落ち込んでいると, 元気づけてくれる	.63	3.06	.92
16 あなたを心から愛している	.61	2.86	.89
累積寄与率 (%) 51.78			

各尺度の基本統計量

日本人への信頼感尺度、留学生への信頼感尺度、心理的適応尺度においては.70以上の値が得られ、内的一貫性が確認された（譚・今野、2012）。

各尺度の相関係数

ソーシャル・サポートと心理的適応の関連 ソーシャル・サポートと心理的適応の関連を検討するために、各変数間の相関係数を求めた。その結果、「日本人サポート」「留学生サポート」は、適応感と弱い正の相関が認められた（順に、 $r = .25, p < .01$ ； $r = .21, p < .05$ ）。「日本人サポート」「留学生サポート」は、不適応感との関連性がなかった。すなわち、ソーシャル・サポートが高いほど主観的適応感が高いことが示された。また、日本人サポートの各項目と適応感の相関係数、留学生サポートの各項目と適応感の相関係数も求めた。適応感に高い関連を示した日本人サポート項目は「12. 日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる」「16. あなたを心から愛している」であった（順に、 $r = .27, r = .24, p < .01$ ）。適応感に高い関連を示した留学生サポート項目は「5. あなたがする話にはいつもたいてい興味を持って耳を傾けてくれる」「3. あなたに何かうれしいことが起きたとき、それを我が事のように喜んでくれる」であった（順に、 $r = .24, r = .23, p < .01$ ）。さらに、若干相関係数が異なるものの、「12. 日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる」「3. あなたに何かうれしいことが起きたとき、それを我が事のように喜んでくれる」「5. あなたがする話にはいつもたいてい興味を持って耳を傾けてくれる」の項目内容が日本人サポートにおいても、留学生サポートにおいても適応感に関連していることが示された。さらに、「日本人サポート」は「留学生サポート」と正の相関が認められた（ $r = .34, p < .01$ ）。

ソーシャル・サポートと対人信頼感の関連 ソーシャル・サポートと対人信頼感の関連を検討するために、各変数間の相関係数を求めた。その結果、「日本人サポート」「留学生サポート」は、「日本人への信頼」および「留学生への信頼」と正の相関が認められた（順に、 $r = .44, r =$

$.34, r = .34, r = .53, p < .01$ ）。「留学生サポート」は、「日本人との不信」と弱い負の相関が認められた（ $r = -.24, p < .01$ ）。

ソーシャル・サポート、対人信頼感が心理的適応に及ぼす影響

本研究のソーシャル・サポート、対人信頼感、心理的適応との関連の相関係数に基づき、ソーシャル・サポートと対人信頼感がどの程度、心理的適応に影響しているかを調べるため、因果モデルを構築した。なお、分析には使用する観測変数の項目に完全に回答した107名（男性48名、女性58名、不明1名）のデータを分析に用いた。

各尺度については、因子ごとに負荷量の高い項目を用いて合計点を算出したところ、それぞれの尺度で.70以上の値が得られたため、分析にはすべてのものを観測変数として扱うことにした。

最終的なモデルを導くにあたって、有意でないパスを削除し、適合度指標の改善の度合いをもとに、モデルの修正を繰り返して最終的なモデルを導いた。具体的な修正は以下に行った。外生変数間の相関、誤差間の相関などをまったく想定しないモデルでは、適合度が若干悪かったため、さらに適切なモデルへ改良するために修正を行った。その際に、留学生サポートと日本人サポート、留学生への信頼と日本人への信頼は、先の相関分析においてそれぞれ両者の間に中程度の相関が見られた。これを考慮して、それぞれに対応する誤差間に共分散を仮定した。その結果、有意でないパスを削除し、より適合度の良い最終モデルを導いた（Figure 1）。最終モデルの適合度は、GFI = .95, AGFI = .85, CFI = .91, RMSEA = .12であり、自由度を考慮した適合度指標はおおむね許容される範囲の値が得られた⁴⁾。以下では各変数間の影響関係について述べる。まず、日本人サポートから適応感までのプロセスでは、「日本人サポート」は「日本人への信頼」を介して「適応感」に間接的な影響を及ぼしていた。また、「留学生サポート」は「留学生への信頼」に影響を及ぼしていた。最後に、「留学生サポート」と「日本人サポート」、「留学生への信頼」と「日本人へ

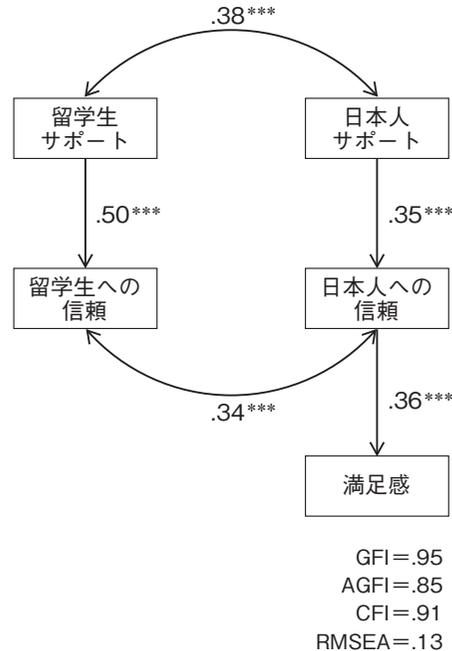


Figure 1 ソーシャル・サポート、対人信頼感、心理的適応に関するモデルと分析結果

注. 数値は標準化された因果係数を表す。

*** $p < .001$.

の信頼」はそれぞれ両者の間に有意な正の相関が認められた。

考察

ソーシャル・サポートと心理的適応の関連について

本研究の目的は、ソーシャル・サポートと心理的適応の関連を検討することであった。相関分析の結果、ソーシャル・サポート（日本人サポート、留学生サポート）は適応感と正の関連が認められた。この結果から、ソーシャル・サポートは中国人留学生の心理的適応と関連していることが明らかになり、ソーシャル・サポートへの期待は中国人留学生の心理的適応を促進する効果があることを示唆する結果が得られたといえる。

本研究で取り上げた適応感とは、学習、学生生活、人間関係への満足感を表すものである。ソーシャル・サポートへの期待が高いと満足感が高まると考えられる。そのため、今回の結果が示されたといえよう。ただし、日本人サポート

と適応感の関連性についても留学生サポートと適応感の関連性についてもいずれの相関係数も大きな値ではなかった。この結果については、以下の解釈ができる。まず、本研究で用いたソーシャル・サポート尺度は、期待するサポートであるが、過去のサポート経験を反映している可能性があると考えられる。たとえば、過去の否定的なサポート経験をもつ人であれば、困難を直面しても他者からのソーシャル・サポートを期待しないと考えられ、それが精神的に苦痛となっているために否定的感情を抱きやすく、留学生の心理的適応には影響が出たのかもしれない。

また、日本人サポート源と自国留学生サポート源以外の、別のサポート源（たとえば、身内の人とか）が留学生の心理的適応に影響している可能性も考えられる。よって今後は、サポート源を拡大して詳細に検討する必要があると考える。さらに、留学生生活において困難や問題が生じた場合に、その問題に対して、他者からの支援を求めず、自分自身で積極的に対応をとっ

ている留学生がいるかもしれない。また、本研究では、日本人サポートの各項目と適応感の相関係数、留学生サポートの各項目と適応感の相関係数を求めた結果、若干相関数値が異なるものの、「12. 日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる」「3. あなたに何かうれしいことが起きたとき、それを我が事のように喜んでくれる」「5. あなたが話す話にはいつもたいてい興味を持って耳を傾けてくれる」の項目内容が日本人サポートにおいても、留学生サポートにおいても適応感に関連していることが示された。すなわち、傾聴や共感などのサポートが適応感につながることを示唆された。

また、日本人サポートと留学生サポートと正の関連が見られた。この結果から、留学生は、留学生生活の困難や問題に対して、他者からの支援を求めず、自分自身で積極的に対応をとるか、他者（まわりの日本人、自国の留学生）からの支援を求めるかを選択しているという個人差があると考えられる。すなわち、サポートを望んでいて、必要と思っている留学生の場合には、まわりの日本人に対しても、自国留学生に対しても積極的にサポートを求めていることが示唆された。

ソーシャル・サポート、対人信頼感が心理的適応に及ぼす影響

まず、相関分析と共分散構造分析の結果、日本人サポートへの期待が高いほど、日本人への信頼が高いこと、留学生サポートへの期待が高いほど、留学生への信頼も日本人への信頼も高いことが示された。生徒の教師に対する信頼感には教師からのソーシャル・サポートが重要な要因であることが示されている（中井・庄司, 2006）。本研究でも同じ結果を得られた。青年期という時期にあつて異文化での対人関係を構築、拡大する中で、日常的に最も接触しているまわりの日本人と自国の留学生が、一般的他者の代表としての側面を持ち得ることが示唆された。このことから、対人信頼感との関連の観点から、他者（まわりの日本人、自国の留学生）のサポートの必要性が示唆された。

また、共分散構造分析によって検討したところ、留学生サポートへの期待が留学生への信頼

に影響を及ぼし、日本人サポートへの期待が日本人への信頼を介して適応感に影響を及ぼした。この結果から、留学生をサポートする際に、留学生からのサポートが留学生への信頼を高めるが、適応の促進という観点から、日本人からのサポートを受けることに努める必要があろう。つまり、自国留学生との交流だけでなく、日本人コミュニティの参加を通して日本人との交流も重要であるといえる。たとえば、日本語学校の段階では、留学生仲間とのネットワークを作ると同時に、日本人との接触や交流の機会を設け、日本人からのサポートを受ける体制づくりが必要であると考えられる。

また、本研究では、ソーシャル・サポートを媒介変数としてモデルに組み込んだ共分散構造分析も行った。モデルの適合度はFigure 1より低いものの、対人信頼感がソーシャル・サポートへの期待を介して適応感に影響するプロセスも示唆された。このことから、ソーシャル・サポートが対人信頼感を増すのか、対人信頼感がソーシャル・サポートを増すのか、それとも両方も考えられるのかという対人信頼感とソーシャル・サポートの因果関係について今後さらなる検討が必要であろう。

今後の課題

先の考察で述べたもののほかに、以下の課題が考えられる。

まず、本研究は、中国人留学生を調査対象としてソーシャル・サポートと主観的適応を表している心理的適応の関連性を検討したものであり、今後、中国人留学生の出席日数、成績などの実際の適応を測定し、同様の結果が得られるかどうかということを検討することも必要となる。

さらに、ソーシャル・サポート、対人信頼感が心理的適応に及ぼす影響を因果モデルにより検討してきたが、このモデルを含め本研究はまだ探索的な段階である。また、本研究の結果は、日本人サポートが日本人へ信頼を介して適応を促進する可能性があることを示唆したに過ぎない。ソーシャル・サポートと心理的適応の因果関係を解明するには、縦断的調査により慎重に議論していく必要があるだろう。さらに、こう

したモデル化から得た知見を踏まえた実践的な介入等の研究が必要であろう。

謝辞

本論文の調査実施にあたり、忙しい留学生活の中、ご協力をいただいた留学生の皆様へ深く感謝いたします。

【注】

- 1) 欠損値のあるデータについては分析ごとに除外した。そのため、分析によってはこれより少ない人数が対象となっている場合もある。
- 2) 実施した質問紙では年齢について「1. 20歳未満 2. 20～24歳 3. 25～29歳 4. 30～34歳 5. 35歳以上」のように年齢範囲を設定して該当するものに○をつけて回答してもらった。
- 3) 本論文の結果（各尺度の基本統計量、各尺度の相関係数）については、譚・今野（2012）と重複しているデータを載せなかった。
- 4) ソーシャル・サポートを媒介変数としてモデルに組み込んだ共分散構造分析も行ったが、モデルの適合度（GFI = .94, AGFI = .82, CFI = .87, RMSEA = .16）はFigure 1より低かったため、採用しなかった。

【引用文献】

- 天貝由美子（1995）. 高校生の自我同一性に及ぼす信頼感の影響 教育心理学研究, **43**, 364-371.
- 朝野聡・北田豊治・野原忠博（1998）. 日本人学生とアジア留学生におけるストレスコーピングと健康に関する比較的研究 工学院大学共通課程研究論叢, **36**, 209-223.
- 早矢仕彩子（1997）. 外国人就学生の自己認知、自・他文化への態度が適応感に及ぼす影響 心理学研究, **68**, 346-354.
- 樋口康彦（1997）. 留学生のパーソナリティ特性が在日適応感に与える影響について—達成志向性・調和志向性の観点から— 実験社会心理学研究, **37**, 150-164.
- 久田満・千田茂博・箕口雅博（1989）. 学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み（1）日本社会心理学会第30回大会発表論文集, 143-144.
- 江志遠・顧佩靈・李欣擘・李曉霞（2011）. 在日中国人就学生の異文化ストレスとソーシャル・サポート源がメンタルヘルスに及ぼす影響 心理臨床学研究, **29**, 563-573.

- 周玉慧（1995）. 受け取ったサポートと適応に関する因果モデルの検討：在日中国系留学生を対象として 心理学研究, **66**, 33-44.
- 周玉慧（2011）. 在日中国系留学生の心身の健康に及ぼすストレスとサポートの影響：17間に变化したのか？ 留学生教育, **16**, 1-12.
- Jou, Y. H., & Fukuda, H. (1995). Effects of social support from various sources on adjustment for Chinese students in Japan. *Journal of Social Psychology*, Vol. 135, pp.305-311.
- 水野治久・石隈利紀（2001）. 留学生のソーシャル・サポートと適応に関する研究の動向と課題 コミュニティ心理学研究, **4**, 132-143.
- 長井進（1986）. 日本人交換留学高校生の異文化への適応過程 教育心理学研究, **34**, 55-61.
- 大橋敏子（2008）. 外国人留学生のメンタルヘルスと危機介入 京都大学学術出版会, pp31-62.
- 高井次郎（1994）. 日本人との交流と在日留学生の異文化適応 異文化間教育, **8**, 106-126.
- 田中共子・高井次郎・神山貴弥・村中千穂・藤原武弘（1990）. 在日外国人留学生の適応に関する研究（1）—異文化適応尺度の因子構造の検討— 広島大学総合科学部紀要, **14**, 77-94.
- 田中共子・高井次郎・南博文・藤原武弘（1990a）. 在日外国人留学生の適応に関する研究（2）—新渡日留学生の一学期間におけるソーシャル・ネットワーク形成と適応— 広島大学総合科学部紀要, **14**, 95-113.
- 田中共子・高井次郎・南博文・藤原武弘（1990b）. 在日外国人留学生の適応に関する研究（3）—新渡日留学生の半年間におけるソーシャル・ネットワーク形成と適応— 広島大学留学生センター紀要, **1**, 77-95.
- 譚紅艷・今野裕之（2012）. 中国人留学生における日本人への信頼感と適応の関連 青年心理学研究, **24**, 15-30.
- 植松晃子（2004）. 日本人留学生の異文化適応の様相：滞在国の対人スキル、民族意識、セルフコントロールに着目して 発達心理学研究, **15**, 313-323.
- 植松晃子（2010）. 異文化環境における民族アイデンティティの役割—集団アイデンティティと自己アイデンティティの関係— パーソナリティ研究, **19**, 25-37.

APPENDIX 1 日本人への信頼感尺度の項目

下位概念	項目
日本人への不信(8項目)	1 過去に、ある日本人に裏切られたりだまされたりしたので、信じるのは怖くなっている
	2 気をつけていないと、日本人は私の弱みにつけ込もうとするだろう
	3 私はなぜか日本人に対して疑(うたぐ)り深くなってしまう
	4 結局、周りの日本人は敵ばかりだと感じる
	5 日本人は自分のためなら簡単に相手を裏切ることができるだろう
	6 今は何かと話せても、日本人など全く当てにならないものである
	7 相手(日本人)が自分を大切にしてくれるのは、そうすることによって相手(日本人)に利益があるときだ
	8 今心から頼れる日本人にもいつか裏切られるかもしれないと思う
日本人への信頼(8項目)	9 無理をしなくてもこの先の人生でも、私は信頼できる日本人と出会えるような気がする
	10 周りのほとんどの日本人は私を信頼してくれているだろう
	11 一般的に、日本人は信頼できるものだと思う
	12 状況が許せば、たいてい日本人はお互いに正直に、かつ誠実にかかわりあいたいと思っているだろう
	13 私は多少のことがあっても、まわりの日本人と今の信頼関係を保っていけると思う
	14 これまでの経験から、日本人もある程度は信頼できると感じる
	15 これまでに出会ったほとんどの日本人は私によくしてくれた
	16 私は現実に信頼できる特定の日本人がいる

APPENDIX 2 留学生への信頼感尺度の項目

下位概念	項目
留学生への信頼 (8項目)	1 一般的に、自国の留学生は信頼できるものだと思う
	2 これまでの経験から、自国の留学生もある程度は信頼できると感じる
	3 私は多少のことがあっても、まわりの自国の留学生と今の信頼関係を保っていけると思う
	4 周りのほとんどの自国の留学生は私を信頼してくれているだろう
	5 状況が許せば、たいてい自国の留学生はお互いに正直に、かつ誠実にかかわりあいたいと思っているだろう
	6 これまでに会ったほとんどの自国の留学生は私によくしてくれた
	7 私は現実に信頼できる特定の自国の留学生がいる
	8 無理をしなくてもこの先の人生でも、私は信頼できる自国の留学生と出会えるような気がする
留学生への不信 (8項目)	9 私はなぜか自国の留学生に対して疑 (うたぐ) り深くなってしまう
	10 今は何かと話せても、自国の留学生など全く当てにならないものである
	11 結局、周りの自国の留学生は敵ばかりだと感じる
	12 過去に、ある自国の留学生に裏切られたりだまされたりしたので、信じるのは怖くなっている
	13 気をつけていないと、自国の留学生は私の弱みにつけ込もうとするだろう
	14 相手 (自国の留学生) が自分を大切にしてくれるのは、そうすることによって相手 (自国の留学生) に利益があるときだ
	15 自国の留学生は自分のためなら簡単に相手を裏切ることができるだろう
	16 今心から頼れる自国の留学生にもいつか裏切られるかもしれないと思う

APPENDIX 3 心理的適応尺度の項目

下位概念	項目
適応感 (6項目)	1 学生生活に満足している
	2 心身共に良好である
	3 日本人との人間関係に満足している
	4 学習・研究の進行は順調である
	5 学生生活は充実している
	6 思うように勉強できている
不適応感 (6項目)	7 イライラして落ち着かない
	8 留学生活では不安になることが多い
	9 最近すぐ落ち込む
	10 自分の思うように学習・研究できていない
	11 日本人に接する時はどこか無理をしている
	12 日本の生活習慣や文化に不満がある

Social support, trusting and degree adjustment of foreign students

Hongyan Tan Mejiro University, Graduate School of Psychology
Tsutomu Watanabe Mejiro University, Faculty of Human Sciences
Hiroyuki Konno Mejiro University, Faculty of Human Sciences

Mejiro Journal of Psychology, 2013 vol.9

[Abstract]

The relationship social support, trusting and degree adjustment in international students between was investigated. Chinese students ($N=160$) responded to a packet of questionnaires that included the following scales: Social support from the Japanese Scale, Social support from Chinese Students in Japan Scale, Trust in the Japanese Scale, Trust in Chinese Students in Japan Scale, and the Psychological Adjustment Scale. The results of a correlational analysis indicated that social support was positively related to psychological adjustment. Moreover, covariance structure analysis indicated that social support from Chinese Students had a facilitative effect on trust in Chinese Students. Furthermore, social support from the Japanese on the feeling of adjustment was significantly mediated by trust in Japanese people.

keywords : social support, trust, adjustment, foreign students